



## ◆巻頭言 精神科 長井 友子

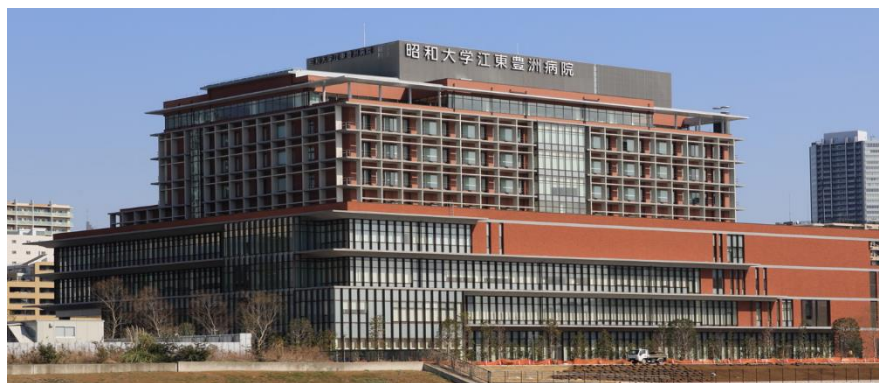
朝夕、日ごとに涼しくなってきました。季節の変わり目を感じる今日この頃です。

今月の巻頭言は、精神科が担当させていただきます。

まずは、当院の精神科の診療体制をご説明させていただきます。当院には精神科の入院病床および外来がないため、精神科治療を目的とした受診はお請けしておりません。身体疾患でご入院された患者さんが、不眠や精神的不調などで精神科治療の必要性が生じた場合や、元々精神疾患を併存されていた方が身体疾患でご入院された場合などに対応をさせていただいております。精神科への入院中の診療依頼のことを「リエゾンコンサルテーション」と言います。当院での依頼内容は、せん妄や睡眠障害が多いです。入院というご高齢の方が多かったり、元々認知症を合併している方がいらっしゃったりするからかもしれません。また、急な入院から適応障害を起こし、抑うつ症状や睡眠障害の症状が出現する方もいます。自分が病気になることなどを想像してこなかった方が入院された場合、入院生活自体がストレスになることは想像に難くありません。ストレスから不眠が生じると、眠れない時間に今後の不安要素ばかりを考えて、うつうつとしてきてしまうものです。ストレスも長期間さらされると、うつ病などの精神疾患を発症することがありますので、不眠の段階から早期に介入して疾患予防になればとも思っております。



私が当院に赴任して2年が経ちました。当院は建物がまばらなところに建っておりデイルームや病室から見える景観がとても良いです。また、病棟や病室も新しくて広いので、ストレスが少ないようにして、せん妄自体が軽く済む（そのため薬の量が少なく済む）ことが多いです。しかし、季節の変わり目になりますと依頼が増える印象があります。身体的にも精神的にも不安定になりやすい時期ですので、皆様お身体に気を付けてお過ごし下さい。



昭和大学江東豊洲病院

### 第42号のトピックス

- 巻頭言 精神科 長井 友子
- 防災訓練
- 病棟紹介 ICU・CCU
- 院内コンサート
- 編集後記

## ◆防災訓練 管理課 芦刈 雄希

2017年9月8日（金）、昭和大学江東豊洲病院防災訓練を実施しました。

今回は震度6強の首都直下型地震の発生を想定し、災害対策本部活動、自衛消防訓練、トリアージ訓練を行いました。

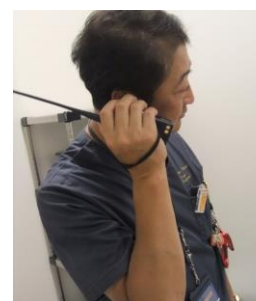
（※「トリアージ」:傷病者の重症度により治療の優先順位を決めること）

災害対策本部活動では、院内各部署へ被害状況の報告を要請し、報告された被害状況を集計する情報収集活動を行いました。

また、災害対策本部活動に並行して実施された自衛消防訓練では、8階B病棟で火災が発生したことを想定し、医師・看護師・警備員が協力して初期消火及び避難誘導にあたり、逐次本部への報告を行いました。

トリアージ訓練では、発災時に傷病者を受け入れることを想定し、治療の優先度によって重症・中等症・軽症の各診療エリアに患者役を振り分け、搬送・治療にあたりました。

今回の訓練では通信手段として新たにトランシーバーを導入し、刻々と変化する患者の容態に合わせ、エリア間の活発な情報伝達を行いました。加えて、後方医療活動として軽症診療エリアには災害時用エアテントを設営し、天候に左右されない災害時の診療体制強化を図りました。



2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、その会場に近い当院は充実した医療を提供するという役割を担うことが想像されます。今なお人口増加が続く豊洲地区において災害対策はますます重要な課題となっています。東京都災害拠点病院である当院は、今回の防災訓練をはじめとする様々な災害対策を通して、災害時の体制のさらなる強化を図り、地域の災害医療の拠点として、これまで以上に皆様に信頼される存在になれるよう邁進してまいります。



エアテント



重症エリア



## ◆病棟紹介 ICU・CCU 看護師長 大橋 広美

昭和大学江東豊洲病院 ICU・CCU は、高度急性期医療を担う病院の中心として地域の期待に応えるよう日々努めております。

ICU・CCU とは、主に心臓疾患、脳血管疾患、食道・肝臓・胃・腎臓などの悪性腫瘍の術後管理や、脳卒中、急性心筋梗塞などのカテーテル治療後、また重症肺炎などの呼吸器管理を必要とする患者さんが入室される集中治療室を指します。ICU・CCU では、その患者さんに対し ICU・CCU 長である麻酔科鈴木尚志教授を中心に各診療科医師、看護師、臨床工学技士、薬剤師、理学療法士、管理栄養士と様々な職種が連携して重症患者さんの状態に合った医療を提供すべく協働しております。



ICU・CCU は、2014 年 3 月、病床数 4 床から徐々に増床し現在 12 床、さらに 10 月 1 日からは 18 床となる予定です。増床される病室の工事も無事終了し、現在はベッドやモニター類など様々な備品が搬入され、入室中の患者さん・ご家族の皆様には工事中に引き続き大変なご迷惑をお掛けしております。

また、看護師はこの増床に伴い 10 人の新しいスタッフを迎え、総勢 45 名の大所帯となりました。スタッフそれぞれが役割と目標を持ち、10 月 1 日に安全に患者さんを迎えるための準備を着々と進めております。

さらに 2018 年 3 月には、東南アジアで初めての試みである「遠隔集中治療患者管理プログラム (eICU)」が導入される予定です。eICU は、品川区旗の台にある昭和大学病院のコントロールルームの医療スタッフと当院の ICU・CCU のベッドサイドがネットワークで繋がり、電子カルテの細かな文字まで見えるライブ映像と、音声でコミュニケーションをとり、さらに臨床データを共有し治療の評価や検討を行なうことで、医療の質向上と滞在期間の短縮など臨床効率の向上が期待されております。上半期はベッドサイドの機器の設置工事が行われ、現在は運用の策定に入りました。今後トレーニングを経て導入へと進む予定です。

昨年より、ICU・CCU には様々に新しい風が吹いています。この風に上手く乗りながら、現在、力を入れている術後リハビリテーションや、家族支援など大事にしている「看護」も継続して育てていきたいと思っております。



## ◆院内コンサート

2017年9月16日(土) 15:00より、院内コンサートが開催されました。

今回は、moi moi jam (モイ・モイ・ジャム) にギターとピアノと歌による演奏が行われました。

心に染みる素敵な歌声と演奏が静かに流れ、演奏後は毎回拍手がわきあがりました。

「オペラティ・オペラダ」の演奏では、手拍子が起こる場面もあり、会場は大いに盛り上がりました。ご覧になられた方の中には、「感動した。」「励みになった。」とおっしゃられる方もおり、大盛況でした。



## 世界糖尿病デー開催

時間：2017年11月16日(木) 10:00~12:00

場所：昭和大学江東豊洲病院1階 タリーズ前にて開催いたします。

内容：血糖およびHbA1cの測定、健康相談、糖尿病・栄養・生活習慣に関する情報の展示、資料配布を無料で行います。是非ご参加ください。



## 編集後記 放射線室 大野 裕亮

木々の葉も色付き、冷えた飲み物よりも暖かく「ホット」するお茶が恋しくなる季節になりました。お茶の偉人といえば、わび茶を極めたとされる千利休が著明です。

千利休がその精神の支柱としていた言葉に『守破離』という銘があります。『守』とは教えを守る事を指し、『破』は教えを破る事、『離』は守の教えから新しい形で精進を重ねる事を指します。私は、この『守破離』の精神でよりよい病院づくりに貢献していきたいと考えます。

夏が終わり、今年もあと約3ヶ月となりました。これからは、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋といろいろな秋が楽しめます。皆様方が何か新しいことに精進できるような秋になると幸いです。



昭和大学  
SHOWA UNIVERSITY

昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000 (代表)

発行責任者：笠間 毅 編集責任者：長谷川 真



昭和大学江東豊洲病院  
Facebook ページ

Showa University Koto Toyosu Hospital